

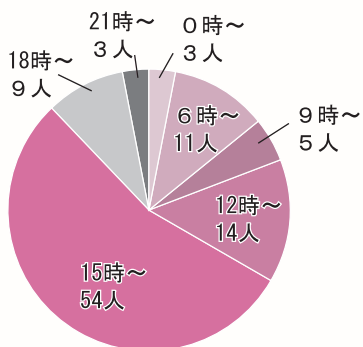


子どもが狙われている

子どもを巻き込んだ犯罪は、決して大都市だけの事件ではなくなりました。こうした犯罪が、いつ、どんな場所で起きているのか、ご存じですか

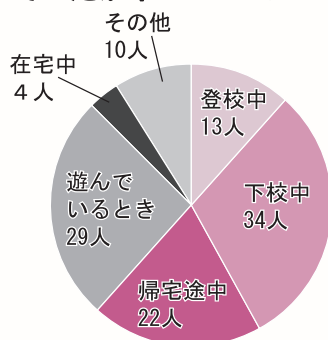
● 発生の時間帯は？

(被害にあった小・中学生 99 人)



● 被害に遭ったとき、被害者は何をしていたか？

(就学児童被害者 112 人)



※データは、警察庁資料参考

昨年11月の「広島市小1女児殺害事件」など、近年子どもを巻き込んだ犯罪が多発しています。警察庁の調べでは、子どもを狙った連れ去りに関する事件は、平成15年1月から10月までに全国で126件起きています。被害者の内訳を年齢別で見ると、その7割に当たる90人が小学生で、時間帯別では、「15時から18時」の学校から自宅へ帰る「下校中」が最多となっています。次に「帰宅途中」となっています。また、事件の発生場所では、「学校から離れた路上」が半数を超えていて、「公園」や「スーパー」などの駐車場でも起きています。

こうした子どもが巻き込まれた不幸な事件は、市内では起きていませんが、不審者や変質者などによる「声掛け」の情報が、年間30件ほど、市教育委員会に寄せられています。子どもを犯罪から守るには、登下校時は通学路を利用し、人通りの少ない場所では一人で歩かないなど「危険」について、普段から子どもと話し合うことが大切です。また、「地域見守り隊」など地域の皆さんによる不審者の監視活動などの防犯対策も、犯罪防止に効果的であるといわれています。

地域の人が、子どもを守る「見守り隊」活動

山之上町 大野邦代さん

(前ページ写真右) 井戸 操さん(同左)

山之上小学校では、平成16年からPTA役員を中心に不審人物はいないかなどの見守り活動が始まりました。

昨年6月に、祖父母らによる「見守り隊」が発足しました。現在、30人ほどが防犯用の腕章を付け、防犯活動に積極的に参加してみえます。金谷地区の大野邦代さんは、見守り隊が発足前から、散歩を兼ねて毎朝お孫さんたちの通学班を見守り続けています。昨年からは、近所の井戸操さんも一緒に活動を始められました。大野さんらは、片道2kmの道を約30分かけて通学班の児童11人と一緒に、歩いてみます。

「孫と一緒に歩いていると、通学路を通り抜けしようとする車が多いことに気付きました。たまに不審者が出没することもあるようです。通学途中、子どもたちが、いろんな話を話してくれます。私たちが一緒に登校することにより、少しでも、安心して通えると思います」とお二人は、語ってくれました。